

井上えり子（神戸学院女子高）

目的 本研究は、戦前、家事教育および家政学に関する多くの著作を出版し、自著も残した文光社社主大元茂一郎（1881～1974年、愛媛県出身）の業績を明らかにすることを目的としている。とくに大元が力を入れた「文部省師範学校中学校高等女学校教員検定試験」（略称「文検」）の「家事」科にかかわる大元の活動に焦点を絞って報告する。

方法 大元の著書『文検家事合格指針全』（1925年、文光社）や「家庭科学」「家事及裁縫」などの雑誌に掲載された大元の著作を分析する。

結果 大元は大洲高等女学校長時代（1919～1923年）に井上秀子（日本女子大学第4代校長）と出会う。上京して文光社を設立（1923年）した後には井上の支援により、彼女の著作を次々に出版した。井上は「文検家事」の臨時検定委員（1919～1942年）を務めるなど「文検家事」とかかわりが深かった。大元は「文検」出身（「教育」と「法制及経済」に合格）であったことから、その経験を生かし、井上の著書を基に「文検家事」のテキスト『文検家事合格指針全』（1925年、文光社）を執筆。また1928年頃から、「文検家事」受験者の指導を本格的に行うようになった。指導生は500人におよびうち合格者は128人であったという。これはこの時期の全合格者の約7割を占める数字である。指導生の中には道喜美代（日本女子大学第8代学長）など家政学、家政教育に大きく貢献した人物も含まれていた。一方、大元の受験指導の基本は井上秀子、松平友子、近藤耕蔵など当時を代表する家政学者の著作の学習をすすめるものであった。